

令和7年度清武せいりゅう支援学校 学校評価

4段階評価 4十分に達成された 3 概ね達成された 2 やや不十分 1ほとんど達成されていない

◎効果的な取組 ●課題

評価項目	評価指標	保護者		職員		評価結果及び現状
		平均	順位	平均	順位	
1 I 安全・安心な学校を目指した危機管理体制の再整備	①お子さんは学校生活を楽しく過ごし、意欲的に参加している。	3.74	1	3.12	1	◎全18項目の中で数値が保護者・職員とも最高であった。 ◎保護者評価は全員が3以上で、評価4が30名(73.8%)であった。
	②安心して学べる教育環境づくりに努め、様々な危機に対応できる危機管理体制の充実を図っている。	3.52	3	3.04	3	◎年間3回の全校での避難訓練(土砂災害、地震、火災)の他、福祉ゾーンとの合同訓練やショート訓練、不審者対応訓練、スクールバス緊急時対応等、様々な訓練を行っている。 ◎保護者評価では評価4が53.7%であった。
	③医療的ケアの緊急対応や災害時対応と防災の在り方、スクールバス運行などに関する危機管理マニュアル等を再点検及び見直しを行っている。	3.48	4	3.04	3	◎訓練で得られた外部専門家からの助言や校内での反省、課題を危機管理マニュアルの見直しに生かしている。 ●緊急時の連絡体制について改善の余地がある。
4 II 肢体不自由教育校としての充実した教育課程	①障がいの状態や発達段階に応じた指導や支援、病院訪問教育学級の増設等の教育課程の充実を図っている。	3.45	5	3.04	3	◎訪問教育の授業は時数ともに適切に実施できた。 ●転出入が頻回で、原籍校や病院と連絡や調整を密にする必要があった。
	②小・中・高一貫した教育課程の充実を図るとともに、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」に基づいた指導の実践に努めている。	3.55	2	2.99	8	◎保護者評価は評価4が54.8%であった。 ◎面談期間を設定し、個別の指導計画等をもとに各学級での面談が充実してきている。
	③児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応する専門性の向上を目指し、授業力を含む学級経営力を高める職員研修の充実を努めている。	3.40	7	3.07	2	◎外部講師を招聘した研修を2学期以降の指導や校内研究に生かすことができた。職員評価は2位と高評価で、効果が得られている。
	④地域で共に育つ児童生徒の交流及び共同学習の充実を図っている。	3.21	12	2.97	11	◎学校間交流で相手校との共通理解を図りながら進めることができた。双方に訪問することで理解が深まり、メリットが得られた。
	⑤特別支援教育のセンター校として機能の拡充を図るとともに、地域の学校の特別支援教育の向上の支援に努めている。	3.19	13	3.00	6	◎各校種からのニーズに応じてチーフコーディネーターの相談や、転出時の引継ぎ、学校間交流の事前学習、大学入試のサポート等を幅広く行った。
9 III 自立活動の指導の充実と専門的指導力の向上	①児童生徒の多様なニーズに応じた専門性の向上を目指し、自立活動の指導の充実を図っている。	3.43	6	3.00	6	◎自立活動に関する情報を定期的に校内職員に周知することで、一定の成果が得られている。
	②肢体不自由教育及び自立活動の専門性に、他の障がい種等に関する指導や支援の専門性を加え、個性と能力の伸長を目指している。	3.38	9	2.97	11	●重度重複化や医療的ケアなど様々な障がいへ対応できる指導力が望まれる。
	③資質・能力の3観点による「個別の指導計画」を踏まえ、専門的指導力の向上に取り組んでいる。	3.40	7	2.92	16	◎個別の指導計画だけではなく学習指導案の様式にも3観点を盛り込んだことにより、職員の意識が高まってきている。
12 IV ICT機器等を活用した情報教育の推進	①日々の授業におけるICT機器等の活用を推進するとともに、ICT機器を文房具と捉える教職員の意識化が図られている。	3.24	11	2.99	8	◎ICT機器の活用場面が広がり、せいりゅう祭等の学校行事においても駆使され、子どもたちの持てる力や魅力を発信できていた。 ●一方で苦手意識をもつ職員が一定数おり、ミニ講座などが有効と考えられる。
	②主体的な学びの実現に向けて、地域の資源や人材を生じた学習活動に取り組んでいる。	3.14	16	2.95	13	◎キャリア支援部がキャリア教育に関する通信を学期ごとに発行している。 ●小・中学部職員や学部所属の職員はキャリア教育に関して、あまり指導をしていない・できていないという自己評価が多い。 ●小学部の保護者に高等部及び卒業後への進路の道すじの理解が図られていない。
13 V 関係機関等と連携したキャリア教育の充実	③本人・保護者のニーズを把握し、関係機関と連携した「未来の夢を考える授業」や、将来の姿を見据えた取組(文化・スポーツ)の充実を図っている。	3.19	13	2.99	10	◎学校運営協議会委員の皆様にも様々な場面で行事に参加をいただき、子供たちとの交流の機会が得られたことに感謝している。 ◎高等部では事業所の方と共に授業を行うことで、卒業後の生活をより具体的に考えることができたことともに、自分や友達のよさを発見することにもつながった。 ●障がい者スポーツ大会等に参加する児童生徒が増加するとよい。
	①小・中・高一貫したキャリア教育の推進を図り、将来の自立と社会参加に向けた力の育成に努めている。	3.29	10	2.95	13	◎職員間の連絡にTeamsを導入し、一斉連絡や、各グループ内、管理職への連絡がスムーズになった。 ◎学校固定電話の対応時間を周知することで、時間外の業務が軽減し、定時退庁につながっている。 ◎会議資料は事前にデータ配付を行い、会議準備の省力化と紙資源の節約になった。議事録作成を一部AIで行っている。 ◎保護者配付文書やアンケートはマチコミやGoogleフォームを活用した。
	②主体的な学びの実現に向けて、地域の資源や人材を生じた学習活動に取り組んでいる。	3.14	16	2.95	13	◎キャリア支援部がキャリア教育に関する通信を学期ごとに発行している。 ●小・中学部職員や学部所属の職員はキャリア教育に関して、あまり指導をしていない・できていないという自己評価が多い。 ●小学部の保護者に高等部及び卒業後への進路の道すじの理解が図られていない。
14	③本人・保護者のニーズを把握し、関係機関と連携した「未来の夢を考える授業」や、将来の姿を見据えた取組(文化・スポーツ)の充実を図っている。	3.19	13	2.99	10	◎学校運営協議会委員の皆様にも様々な場面で行事に参加をいただき、子供たちとの交流の機会が得られたことに感謝している。 ◎高等部では事業所の方と共に授業を行うことで、卒業後の生活をより具体的に考えることができたことともに、自分や友達のよさを発見することにもつながった。 ●障がい者スポーツ大会等に参加する児童生徒が増加するとよい。
	①業務のICT化及び業務の効率化(ICT以外)を推進している。	3.14	16	2.93	15	◎職員間の連絡にTeamsを導入し、一斉連絡や、各グループ内、管理職への連絡がスムーズになった。 ◎学校固定電話の対応時間を周知することで、時間外の業務が軽減し、定時退庁につながっている。 ◎会議資料は事前にデータ配付を行い、会議準備の省力化と紙資源の節約になった。議事録作成を一部AIで行っている。 ◎保護者配付文書やアンケートはマチコミやGoogleフォームを活用した。
16 VI働き方改革の推進によるワーク・ライフ・バランスの向上	②フレックスタイムが取得しやすいよう、会議等の精選を図られている。	3.14	16	2.83	18	◎金曜日に会議を設定しないようにし、一斉退庁日とした。 ●職員評価が最低だが、フレックスタイム制度を日常的に活用している職員(約30%)としない(できない)職員の二極化が原因と推測される。
	③協働できる職場環境として、職員間のコミュニケーションと連携が推進されている。	3.19	13	2.92	16	◎全体で参集・協議する機会は厳選しており少ないが、他の手段で補うことは可能である。

学校関係者評価	
コメント	評価
・個別避難計画など熱心に取り組んでいる。福祉避難所の対応を市役所に働きかけて、さらに進めてほしい。 ・災害の種類や規模によって異なる。 ・災害に対しては想定幅が大きいので、充分とは言えないが、本校の対応は十分に近い。 ・子供たちは、のびのびと生活している。	3
・特定の教師だけに負担を負わせるのではなく、学級担任以外の教員も含めた「チーム」で子供を支える体制を評価する。組織的なバックアップがあってこそ、児童生徒一人ひとりの特性に応じたきめ細やかな指導が可能になると期待している。 ・重複障がい医療的ケアの子供たちに対し、それぞれの個性を十分に引き出した教育がなされている。 ・文化・スポーツや交流など子供の可能性を高める取組を行っている。 ・地域へのアピールをさらに充実させてほしい。	3
・研修によく取り組んでいる。 ・自立活動についての取組を今後も続けていってほしい。 ・文化的な賞をはじめ、優秀な成績を収めている生徒がいるのは教員の努力の賜です。	3
・ICTを駆使した取組がよく見られる。 ・今後もICT機器の発達についていけるようにしてほしい。	3
・文化・スポーツを含めて、卒業後に向けた育成によく取り組んでいる。 ・研修や交流をさらに充実させてほしい。 ・特別支援学校は敷居が高いと思われるがちである。地域にもっと存在をアピールし、理解者を増やしてほしい。	3
・働き方改革を民間の「棚卸し」と同様に、既存の業務を整理し、無駄をそぎ落としていくことを評価している。浮いた時間を子供たちの教材準備や直接的な支援に充てることは、教育の質を保つために極めて重要な改革であると確信している。 ・ワーク・ライフ・バランスはそれぞれのタイミング・時間で様々違いがあるので、一概に言えないが働き方改革によく取り組んでいる。 ・それぞれ第一優先事項が異なる。仕事したいが休みを確保しなくてはのジレンマ等まさに二極化ではないか。フレックスタイムを自由に選択できる在り方もあり得るのでは。 ・保護者から監視カメラ導入の意見もあったが、反対である。思春期の生徒のプライバシーや先生方のプレッシャーを考慮すべきである。 ・先生方のご努力には頭が下がります。お体ご自愛ください。お疲れ様です。 ・全ての事項に対して努力されており、今後とも子供たちのことを考えながら運営していただきたい。	3

凡例
3以上
3未満
暖色 …上位
寒色 …下位